

A stylized, dark-toned map of East Asia, showing the Korean Peninsula, Japan, and the surrounding seas. The map is rendered in shades of brown, green, and blue, with a textured, almost topographical appearance. It serves as the background for the text.

中国の文化Ⅲ

日中文化交流史

第七回 倭寇と遣明使



鎌倉大仏は、中国から輸入された銅銭を使って作られたといいますが、なぜ銅銭を使ったのですか。また、当時そんなにたくさんの銅銭を運ぶことはできたのですか。

質問



鎌倉の大仏様「素材は中国銭」

別府大グループが解明

「美男におはす」とうたわれた鎌倉の大仏様は、中国からもたらされた銭（銅貨）で造られたらしいことが別府大（大分県別府市）のグループの研究で明らかになった。平安時代末の12世紀半ば、中国銭は貨幣ではなく、銅製品の原料として輸入されるようになったというのだ。

（渡辺延志）

銅の流通事情決め手

国家事業だった奈良の大仏と違い、民間主導の鎌倉の大仏は

建立の過程でわからないことが多い。原料が何かは、その中でも大きなぞ。国産銅でまかなえた奈良大仏とは違い、鎌倉時代は銅が不足していたからだ。

手がかりは平安鎌倉期の銅製の経筒にあった。当時は末法思想が流行し、お経を筒に納めて地中に埋めた。同大の平尾良光教授（文化財科学）が全国各地で出土した50点を調査し、含まれる鉛の同位体比を測定した。この数値で原産地を特定することができ、1150年ごろを境

に一気に国産から中国華南産に切り替わったことがわかった。

平安時代の後期、日本は銅不足に悩んでいた。8世紀初めからは和同開珎など12種類の銅貨が発行されたが、時代を追って小型化し、銅の割合が下がり鉛が多くなった。枚数も減り、10世紀半ばには製造が止まる。当時の製錬技術に見合う銅資源が枯渇したためと考えられる。

飯沼賢司教授（日本史）は経筒の分布を調べた。まず11世紀後半に九州北部に現れる。銅産地があったらしい。近畿や関東にまで広まるのは12世紀半ばで、このころ原料が中国産に代わっている。

この時期、多量の銭が輸入さ

○鎌倉大仏＝神奈川県鎌倉市
○時として多量の中国銭が出土する。7割以上は平安後期、鎌倉半ばに相当する北宋・南宋のものだ。08年、福井市



れたことがわかっていて、まとまった量の銅が手に入る方法はほかに見あたらない。経筒の原料は中国銭の可能性が強まったが、銭には「簡単にはつぶさないだろう」との先入観もあり、飯沼さんらは銭の流通状況をたどった。国産銭の発行が止まってから2世紀以上をへて、日本では12世紀末、13世紀初めに中国銭の流通が急に本格化する。銭の輸入が始まってから数十年たった後だった。

「輸入当初、日本で銭は流通していなかった。銭はもともと銅製品の原料として輸入され、余った分がしだいに通貨として使われるようになった」との結論を導いた。

『経筒が語る中世の世界』（思文閣出版）としてまとめられたこの研究に、黒田明伸東京大教授（中国経済史）は「日本で銭の流通が突然始まる理由が分からなかったが、疑問が解けた」と納得する。

銭製造はコストが高く、中国は国外持ち出しを禁じてきた。12世紀の半ば、南宋では紙幣の流通が安定したので、銭を持ち出しやすくなったのだらうと黒田さんは背景を考える。

この輸入銭の研究が鎌倉大仏と結びついた。平尾さんは以前勤務した東京文化財研究所で鎌倉大仏とその周辺の遺物を分析していた。その結果もすべて中国華南産を示した。奈良大仏は鉛を1%程度しか含まないが、鎌倉大仏は10%以上で中国銭に近い組成ともわかっていった。



鎌倉高德院阿弥陀如来坐像(1243年?)



奈良東大寺盧舎那仏像(752年)



鎌倉高德院阿弥陀如来坐像(1243年?)

鎌倉大仏の規模と重量

総高(台座を含む)	13.35m
仏身高	11.31m
面長	2.35m
眼長	1.00m
口幅	0.82m
耳長	1.90m
眉間白毫直径	0.18m
螺髪(頭髮)高	0.18m
螺髪直径	0.24m
螺髪数	656個
仏体重量	121 t



- ① 約一トン
- ② 約三〇トン

鎌倉大仏の重量は一二一トンだが、当時日中間を往来していた貿易船には、何トンの銅銭が積まれていたか？





NHK ETV特集「日本と朝鮮の2000年第7集」より

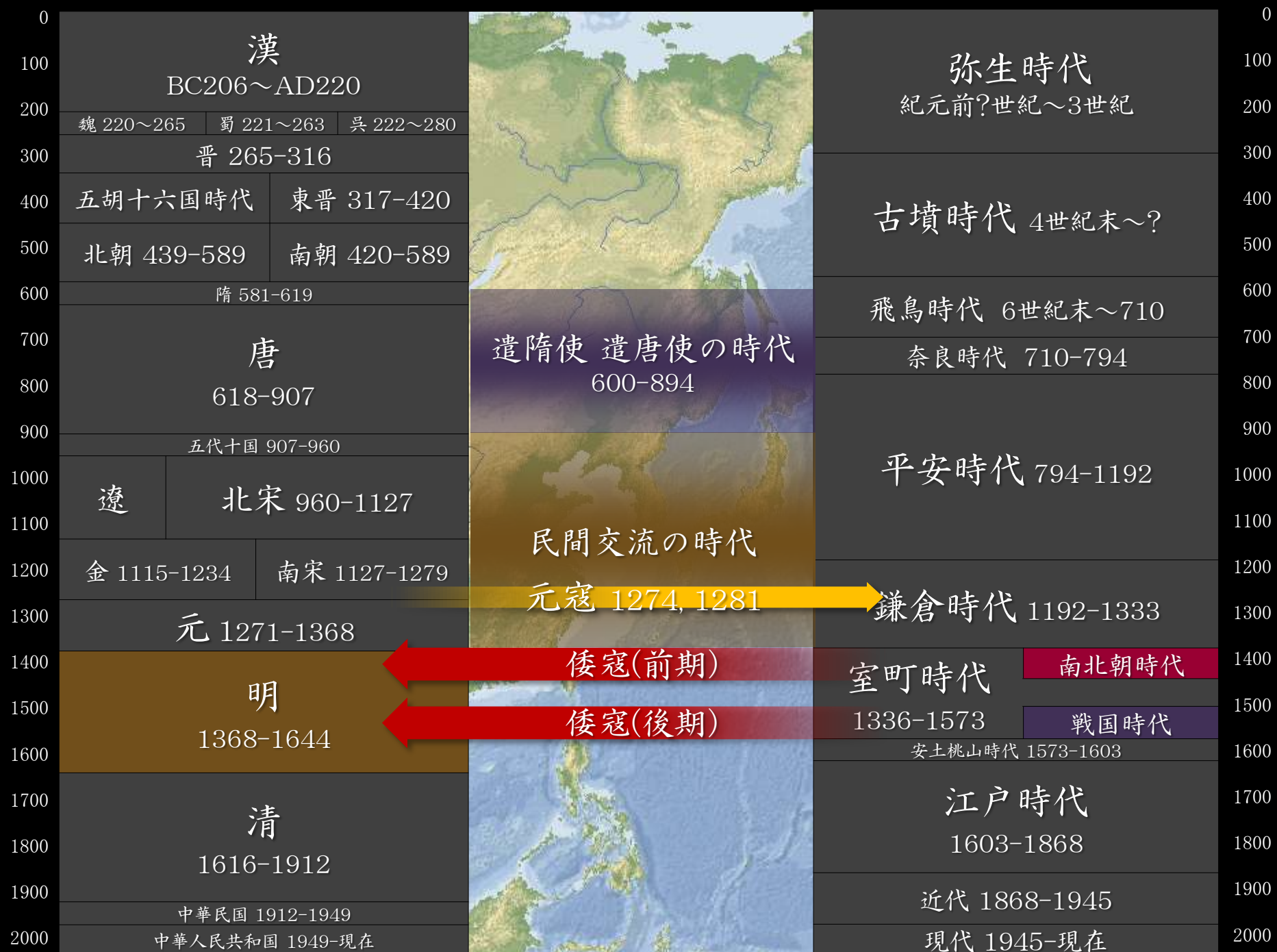


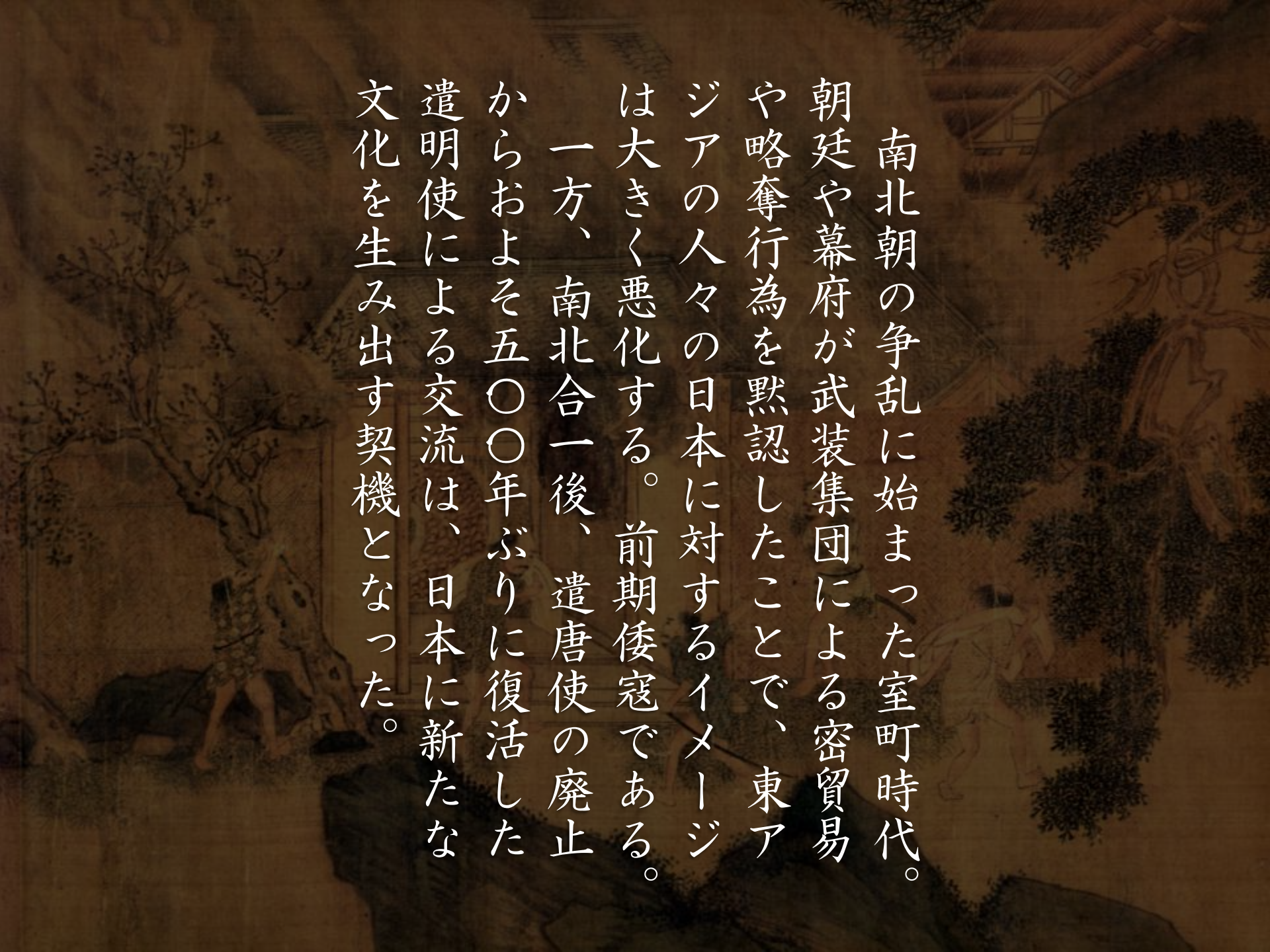
0	漢		
100	BC206~AD220		
200	魏 220~265	蜀 221~263	吳 222~280
300	晉 265-316		
400	五胡十六国時代	東晉 317-420	
500	北朝 439-589	南朝 420-589	
600	隋 581-619		
700	唐		
800	618-907		
900	五代十国 907-960		
1000	遼	北宋 960-1127	
1100			
1200	金 1115-1234	南宋 1127-1279	
1300	元 1271-1368		
1400	明		
1500	1368-1644		
1600	清		
1700	1616-1912		
1800	中華民國 1912-1949		
1900	中華人民共和國 1949-現在		
2000			



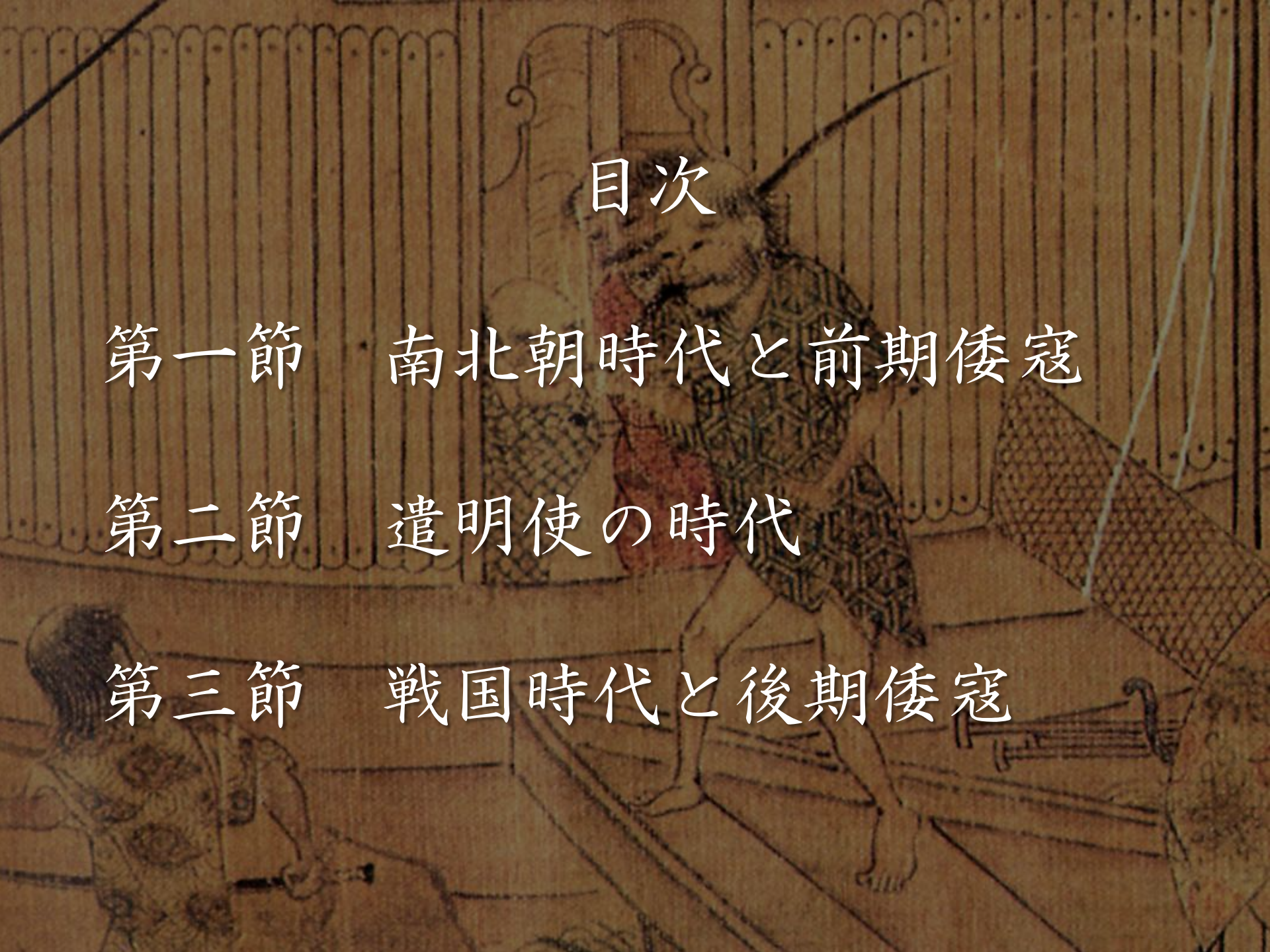
0	漢		
100	BC206~AD220		
200	魏 220~265	蜀 221~263	吳 222~280
300	晉 265-316		
400	五胡十六国時代	東晉 317-420	
500	北朝 439-589	南朝 420-589	
600	隋 581-619		
700	唐		
800	618-907		
900	五代十国 907-960		
1000	遼	北宋 960-1127	
1100			
1200	金 1115-1234	南宋 1127-1279	
1300	元 1271-1368		
1400	明		
1500			
1600			
1700	清		
1800			
1900			
2000	中華民國 1912-1949		
	中華人民共和國 1949-現在		







南北朝の争乱に始まった室町時代。
朝廷や幕府が武装集団による密貿易
や略奪行為を黙認したことで、東ア
ジアの人々の日本に対するイメージ
は大きく悪化する。前期倭寇である。
一方、南北合一後、遣唐使の廃止
からおよそ五〇〇年ぶりに復活した
遣明使による交流は、日本に新たな
文化を生み出す契機となった。

The background is a traditional Japanese woodblock print illustration. It depicts a scene with several figures in a room. In the center, a figure with a large, ornate headdress and a patterned robe is seated or standing. To the left, another figure is partially visible, also in traditional attire. The room features a sliding door (shoji) with a vertical slat pattern. The overall style is characteristic of Edo-period Japanese art.

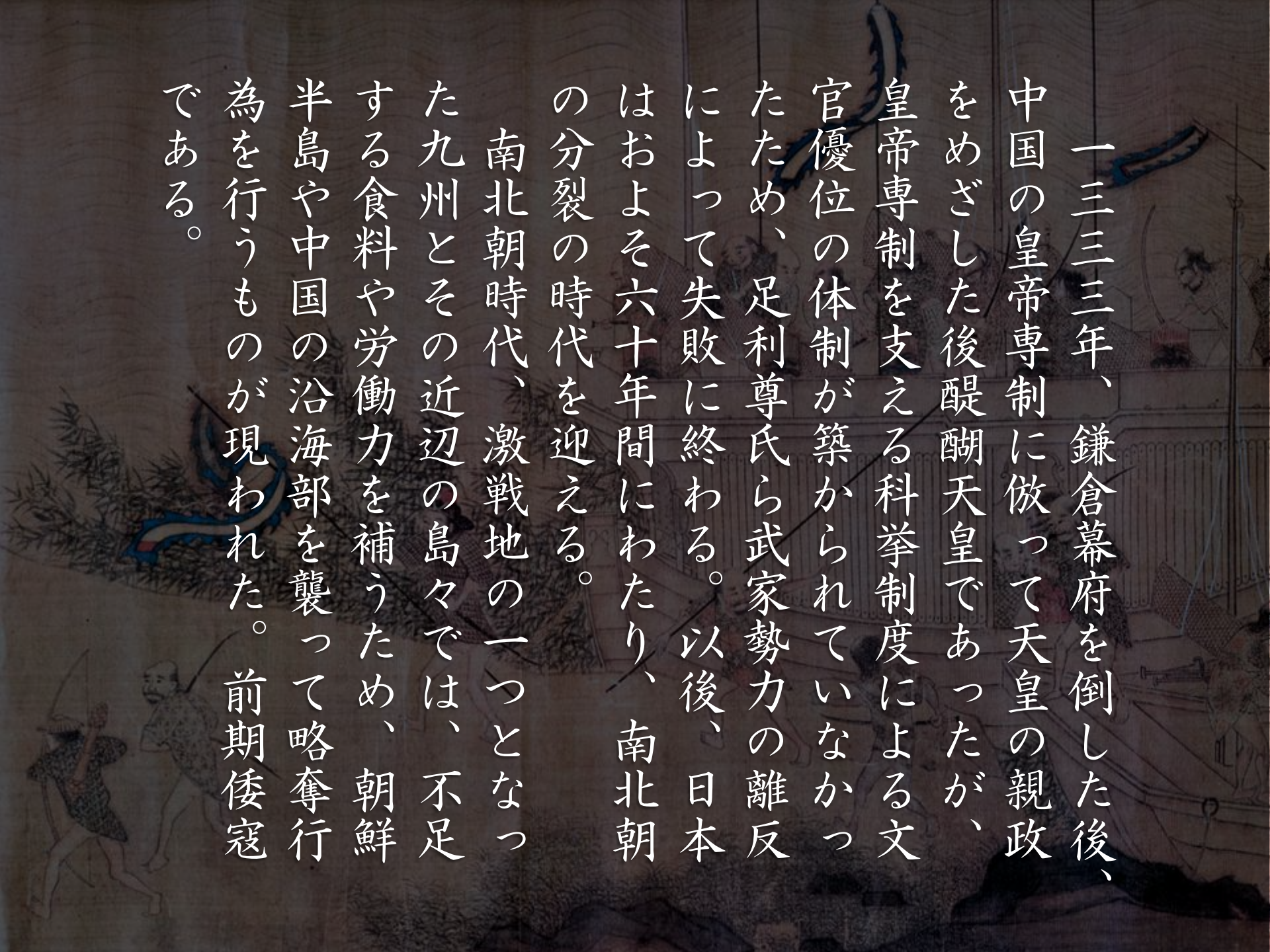
目次

第一節 南北朝時代と前期倭寇

第二節 遣明使の時代

第三節 戦国時代と後期倭寇

第一節 南北朝時代と前期倭寇



一三三三年、鎌倉幕府を倒した後、
中国の皇帝専制に倣って天皇の親政
をめざした後醍醐天皇であつたが、
皇帝専制を支える科挙制度による文
官優位の体制が築かられていなかった
ため、足利尊氏ら武家勢力の離反
によつて失敗に終わる。以後、日本
はおよそ六十年間にわたり、南北朝
の分裂の時代を迎える。

南北朝時代、激戦地の一つとなつ
た九州とその近辺の島々では、不足
する食料や労働力を補うため、朝鮮
半島や中国の沿海部を襲つて略奪行
為を行うものが現われた。前期倭寇
である。



Q

中国皇帝風に冕冠十二旒をか
ぶり、僧衣を身につけたこの
人物は誰でしょうか？

① 後醍醐天皇

② 足利尊氏

後醍醐天皇と建武の新政

後醍醐天皇は、鎌倉の武家政権を倒した後、中国の皇帝に倣って天皇による親政をめざしたが、中国の皇帝専制を支えていた科挙制度による文官優位の体制が築かれていなかったため、足利尊氏ら武士の離反によって失敗に終わった。

＊図版は重要文化財「絹本着色後醍醐天皇御像」

（神奈川県藤沢市遊行寺（ゆぎようじ）蔵）



中国大陸

朝鮮半島

日本列島

東アジアの武人支配





NHK E

NHK ETV特集「日本と朝鮮の2000年 第7集」より

舊居住以便官民下兵曹與議政府同議○壬戌判中樞院事李順蒙上書曰臣伏觀國家聲教遠被邊境無虞生齒之繁戶口之夥而軍額不

加者以其民無定志而逃避差役者多也其中公私賤口逃移他道自冒兩班婚姻有蔭之家至有生子之後見獲還賤者其爲反常甚多臣聞前朝之季倭寇興行民不聊生然其間倭人不過一二而本國之民假著倭服成黨作亂是亦鑑也今新白丁與平民間居相與作黨爲盜宰殺牛馬之利耳濡目染以爲常事或因嫌隙故燒人家將恐有難防之患救弊之要莫切於彌牌昔在太宗朝彌牌之法試行數年而流移鮮少或議煩擾民間而廢之此弊小矣當時盜賊流亡之徒日盛不可勝紀臣願復行彌牌之法禁遊手之輩弭盜賊之源則良賤有別而軍額日敷獄訟弭而民之生產物故自明矣不報時公私賤口及逃役良人彼此流移者不知紀極順蒙羈人亦憤其弊乃上此疏○十一月乙丑朔論平安道採訪別監皇甫恭松骨進獻之物關係至重故捕捉器械與考察之方論賞之條詳悉立法且松骨不隨歲有無產出之數倭寇は日本人ではないのか？

前朝（高麗）の末、倭寇が横行し、民は安心して暮らすことができませんでした。しかし、その中の倭人はずかに一、二に過ぎず、わが国の民が倭服で変装して乱を為していました。

倭寇の地域別発生件数

■ 朝鮮半島 ■ 中国

田中健夫『倭寇 海の歴史』
(講談社学術文庫 2012年)をもとに作成

遣明船の派遣 1401-1547

1320 1325 1330 1335 1340 1345 1350 1355 1360 1365 1370 1375 1380 1385 1390 1395 1400 1405 1410 1415 1420 1425 1430 1435 1440 1445 1450 1455 1460 1465 1470 1475 1480 1485 1490 1495 1500 1505 1510 1515 1520 1525 1530 1535 1540 1545 1550 1555 1560 1565 1570 1575 1580 1585 1590 1595 1600 1605 1610 1615

鎌倉時代

南北朝時代
1336-92年

室町時代

戦国時代
1493-1573年

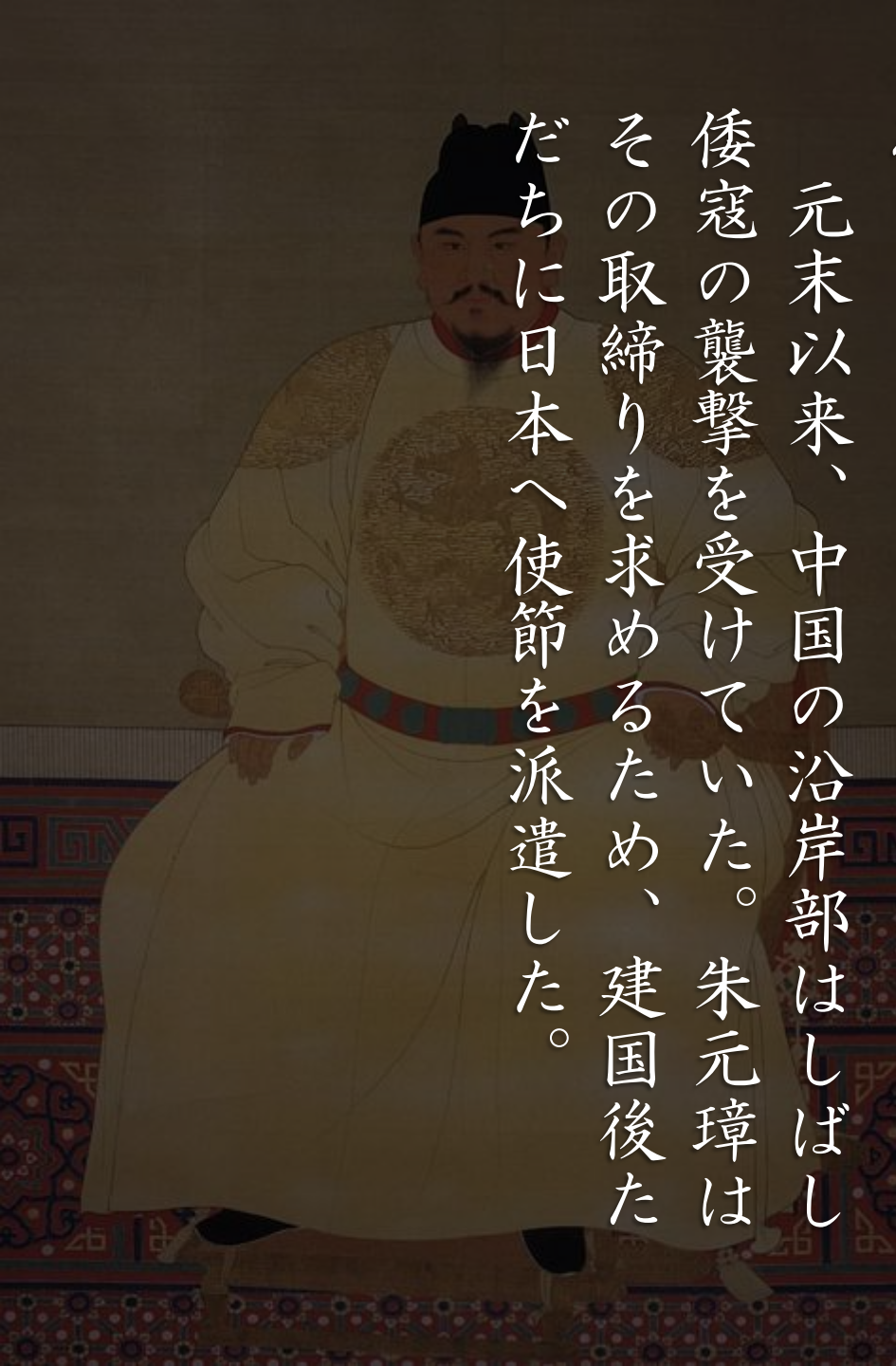
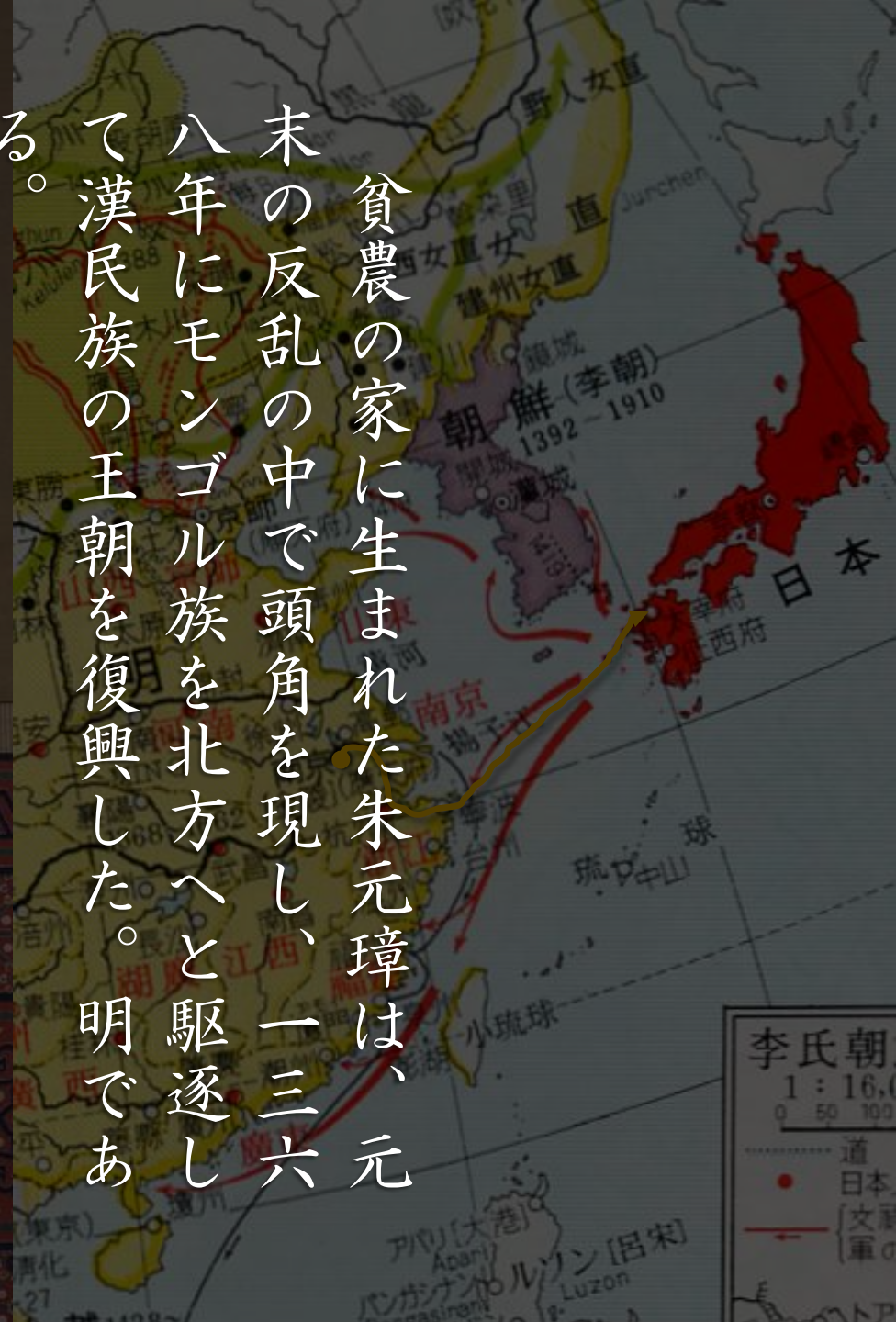
安土桃山時代

江戸時代



貧農の家に生まれた朱元璋は、元末の反乱の中で頭角を現し、一三六八年にモンゴル族を北方へと駆逐して漢民族の王朝を復興した。明である。

元末以来、中国の沿岸部はしばしば倭寇の襲撃を受けていた。朱元璋はその取締りを求めるため、建国後ただちに日本へ使節を派遣した。





明太祖洪武帝(1328~98)





- ① 北朝
- ② 南朝

Q
朱元璋が派遣した使節を迎えたのは、北朝か南朝か？

明太祖洪武帝(1328~98)





北朝征夷大將軍
足利義滿

南朝征西大將軍
懷良親王

〔北朝〕

後伏見天皇

光嚴天皇

崇光天皇

花園天皇

光明天皇

後光嚴天皇

〔南朝〕

後醍醐天皇

尊良親王

世良親王

成良親王

後村上天皇

長慶天皇

護良親王

宗良親王

懷良親王

倭寇を描いた明代の小説

陝西の商人・楊八老には李氏という妻と世道という子がいた。商いのため福建に行った楊八老は、そこで璧氏を妻に迎え世徳という子が生まれる。

陝西に帰る途中、楊八老は倭寇によって異国に連れ去られてしまう。それから十九年後、倭寇とともに中国に戻った楊八老は、役人に捕えられ、裁判にかけられる。

昔の下僕の証言で、楊八老は紹興府へ送られるが、そこで役人となっていたのは、十九年前に別れた二人の子供たちであつた。達人知命揔度外、傀儡、こうして物語は大団円で終わる。

Q

この小説に描かれたような倭寇による拉致事件は、実際にあったのだろうか？

- ① 実際にあった
- ② ただのフィクション

第十八卷

楊八老越國奇逢

君不見乎陽公主馬前奴一朝富貴嫁爲夫又不見咸陽東門種瓜者昔日封侯何在也榮枯貴賤如轉丸風雲變幻誠多端達人知命揔度外傀儡場中一例看

這篇古風是說人窮通有命或先富後貧先賤後貴如雲蹤無定瞬息改觀不由人意想測度且如宋朝呂蒙正秀才未遇之時家道艱難三日不曾飽餐天津橋上賒得一瓜在橋柱上磕之失手落于橋下那



楊八老漳州被賣



第十八卷

楊八老越國奇逢

君不見平陽公主馬前奴一朝富貴嫁爲夫又不見咸陽東門種瓜者昔日封侯何在也榮枯貴賤如轉丸風雲變幻誠多端達人知命揔度外傀儡場中一例看

這篇古風是說人窮通有命或先富後貧先賤後貴如雲蹤無定瞬息改觀不由人意思測度且如宋朝呂蒙正秀才未遇之時家道艱難三日不曾飽餐天津橋上賒得一瓜在橋柱上磕之失手落于橋下那

古今小說第十八卷 楊八老越國奇逢(法政大學圖書館藏)



具前史惟元世祖數遣使趙良弼招之不至乃命忻都
范文虎等帥舟師十萬征之至五龍山遭暴風軍盡沒
後屢招不至終元世未相通也明興高皇帝卽位方國
珍張士誠相繼誅服諸豪亡命往往糾島人入寇山東
濱海州縣洪武二年三月帝遣行人楊載詔諭其國且
詰以入寇之故謂宜朝則來廷不則修兵自固倘必爲
寇盜卽命將徂征耳王其圖之日本王良懷不奉命復
寇山東轉掠溫台明州旁海民遂寇福建沿海郡三年
三月又遣萊州府同知趙秩責讓之泛海至析木崖入
其境守關者拒弗納秩以書抵良懷良懷延秩入諭以
明からの倭寇取締り要求

洪武二年（一三六九年）三月、洪武

帝は使節として楊載を派遣して、日本に詔諭を下し、倭寇の侵入について責任を追及した。「朝貢を望むなら、宮廷に来るように。そうでないなら、武器を調え守りを固めよ。もし倭寇を続けるのなら、將軍に命じて征伐するのみ。王よ、よく考えよ」

具前史惟元世祖數遣使趙良弼招之不至乃命忻都
范文虎等帥舟師十萬征之至五龍山遭暴風軍盡沒
後屢招不至終元世未相通也明興高皇帝卽位方國
珍張士誠相繼誅服諸豪亡命往往糾島人入寇山東
濱海州縣洪武二年三月帝遣行人楊載詔諭其國且
詰以入寇之故謂宜朝則來廷不則修兵自固倘必爲
寇盜卽命將徂征耳王其圖之日本王良懷不奉命復
寇山東轉掠溫台明州旁海民遂寇福建沿海郡三年
三月又遣萊州府同知趙秩責讓之泛海至析木崖入
其境守關者拒弗納秩以書抵良懷良懷延秩入諭以
明からの倭寇取締り要求

日本の王・良懷(懷良)は命に従わ

ず*、再び倭寇が山東を襲い、さらに
温州、台州、明州(寧波)の沿海住
民を略奪し、ついには福建の沿海郡
に及んだ。

*このとき懷良親王は、明使一行七人のうち五人
を斬り、楊載ら二名は、三ヶ月に及ぶ拘留の後、
釈放された。

具前史惟元世祖數遣使趙良弼招之不至乃命忻都
范文虎等帥舟師十萬征之至五龍山遭暴風軍盡沒
後屢招不至終元世未相通也明興高皇帝卽位方國
珍張士誠相繼誅服諸豪亡命往往糾島人入寇山東
濱海州縣洪武二年三月帝遣行人楊載詔諭其國且
詰以入寇之故謂宜朝則來廷不則修兵自固倘必爲
寇盜卽命將徂征耳王其圖之日本王良懷不奉命復
寇山東轉掠溫台明州旁海民遂寇福建沿海郡三年
三月又遣萊州府同知趙秩責讓之泛海至析木崖入
其境守關者拒弗納秩以書抵良懷良懷延秩入諭以

明からの倭寇取締り要求

そこで、洪武三年（一三七〇年）三我我
月、萊州府の同知趙秩を派遣してそ
の責任を追及した。海を渡り日本の
領内に入ったが、警備の者に入国を
阻まれたため、懷良親王に書簡を送
ると、親王は趙秩を迎え入れた。

明からの倭寇取締り要求

懷良親王は言った。明興高皇帝即位方國
「わが国は扶桑の東にあるが、いつ
も中国を敬慕してきた。ところが蒙
古は我々と同じ夷狄でありながら、
我々を臣従させようとし、福先王が二年
れを不服とする」と趙という姓の者を
派遣して甘言をもつて欺こうとした。

中國威德而詔書有責其不臣語良懷曰吾國雖處扶
桑東未嘗不慕中國惟蒙古與我等夷乃欲臣妾我我
先王不服乃使其臣趙姓者誅我以好語語未既水軍
十萬列海岸矣以天之靈雷霆波濤一時軍盡覆今新
天子帝中夏天使亦趙姓豈蒙古裔耶亦將誅我以好
語而襲我也目左右將兵之秩不爲動徐曰我大明天
子として交渉も終わらぬ中に者十萬の我
水軍が海岸に並んだ。」其僧祖來奉表稱臣

明からの倭寇取締り要求

「いま新たな天子が中国で帝位についたというが、使節の姓は趙であるからこれも蒙古の後裔であり、甘言によつてわれらを欺き襲撃するつもりであろう」明州旁海民遂寇福建沿海郡三年三月又遣使糾集其衆以書抵良懷良懷延秩入諭以目くばせした。

明史卷三百二十二日本伝

中國威德而詔書有責其不臣語良懷曰吾國雖處扶桑東未嘗不慕中國惟蒙古與我等夷乃欲臣妾我我先王不服乃使其臣趙姓者誅我以好語語未既水軍十萬列海岸矣以天之靈雷霆波濤一時軍盡覆今新天子帝中夏天使亦趙姓豈蒙古裔耶亦將誅我以好語而襲我也目左右將兵之秩不爲動徐曰我大明天子神聖文武非蒙古比我亦非蒙古使者後能兵兵我良懷氣沮下堂延秩禮遇甚優遣其僧祖來奉表稱臣貢馬及方物且送還明台二郡被掠人口七十餘以四年十月至京太祖嘉之宴賚其使者念其俗佞佛可以

明からの倭寇取締り要求

趙秩は少しも動じることなく、位方國
ゆつくりとこう言った。在糾島人入寇山東

「わが大明国の天子は、神聖にして

文武を兼ねること蒙古の比ではない。

また私も蒙古の使者の後裔ではない。

殺せるなら、殺すがよい」
其境守關者拒弗納秩以書抵良懷良懷延秩入諭以

明史卷三百二十二日本伝

中國威德而詔書有責其不臣語良懷曰吾國雖處扶
桑東未嘗不慕中國惟蒙古與我等夷乃欲臣妾我我
先王不服乃使其臣趙姓者誅我以好語語未旣水軍
十萬列海岸矣以天之靈雷霆波濤一時軍盡覆今新
天子帝中夏天使亦趙姓豈蒙古裔耶亦將誅我以好
語而襲我也目左右將兵之秩不爲動徐曰我大明天
子神聖文武非蒙古比我亦非蒙古使者後能兵兵我
良懷氣沮下堂延秩禮遇甚優遣其僧祖來奉表稱臣
貢馬及方物且送還明台二郡被掠人口七十餘以四
年十月至京太祖嘉之宴賚其使者念其俗佞佛可以

明からの倭寇取締り要求

懷良親王は驚いて堂を下ると、秩を手厚くもてなし、その国の僧・祖來を派遣して上表文を奉じて臣下と称し、馬や特産物を貢物として献上した。また明州(寧波)と台州の二郡から拉致した七十余名を、洪武四年(一三七一)十月に都へ帰還させた。

明史卷三百二十二日本伝

中國威德而詔書有責其不臣語良懷曰吾國雖處扶桑東未嘗不慕中國惟蒙古與我等夷乃欲臣妾我我先王不服乃使其臣趙姓者誅我以好語語未既水軍十萬列海岸矣以天之靈雷霆波濤一時軍盡覆今新天子帝中夏天使亦趙姓豈蒙古裔耶亦將誅我以好語而襲我也目左右將兵之秩不爲動徐曰我大明天子神聖文武非蒙古比我亦非蒙古使者後能兵兵我良懷氣沮下堂延秩禮遇甚優遣其僧祖來奉表稱臣貢馬及方物且送還明台二郡被掠人口七十餘以四年十月至京太祖嘉之宴賚其使者念其俗佞佛可以

謡曲「唐船」に描かれた明の被虜人

祖慶官人は、乗っていた船が寧波近くで倭寇に襲われ、筑前の箱崎殿のもとで十三年間使役される。そこで日本の妻を迎え、二人の子供がいたが、ある日、中国に残してきた二人の子供たちが父を迎えに来る。祖慶官人は両者に挟まれて苦悩するが、箱崎殿のはからいで日本の子供をつれて明に帰国する。



任常舟主成冬



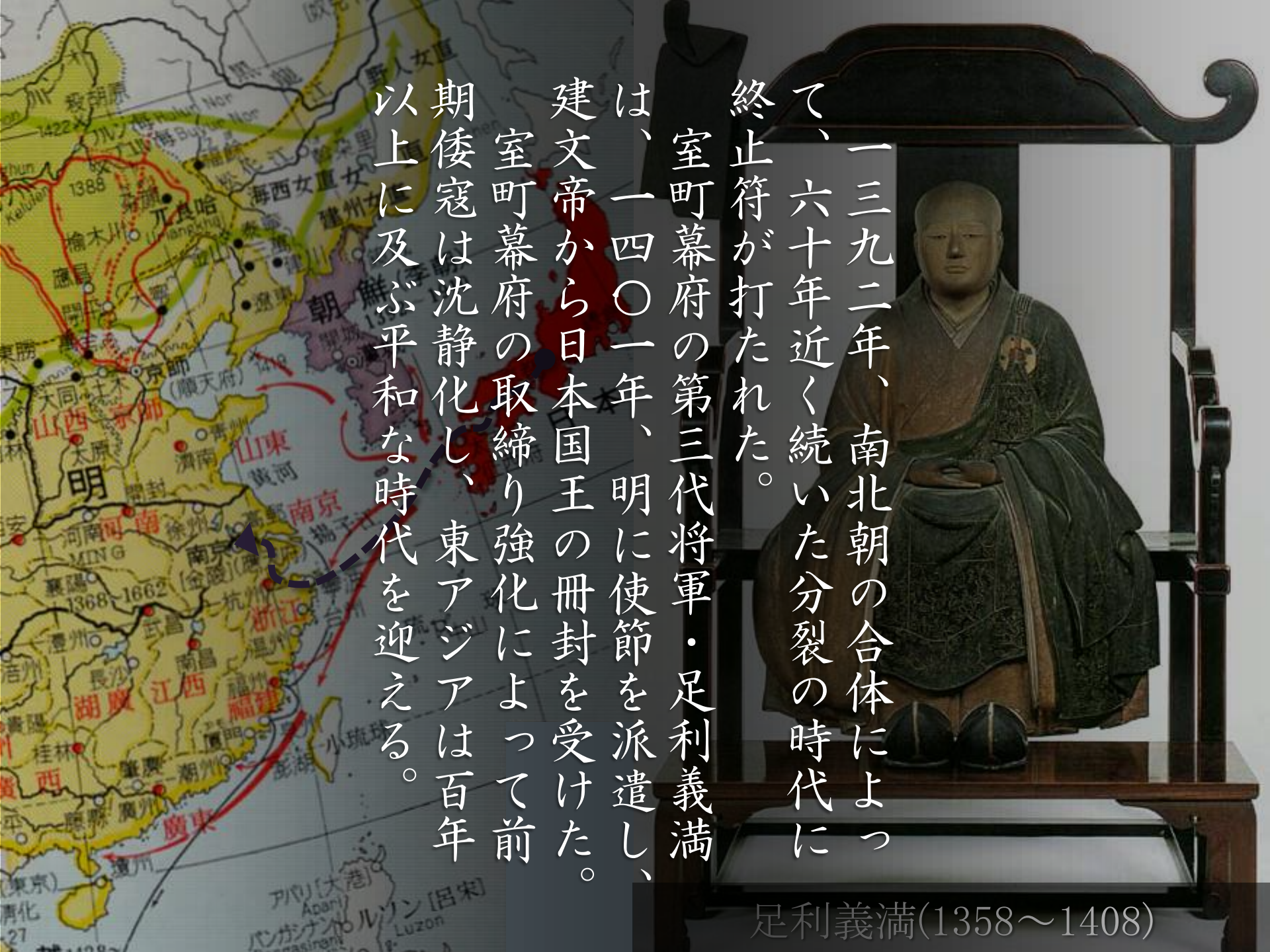
第二節 遣明使の時代



一三九二年、南北朝の合体によって、六十年近く続いた分裂の時代に終止符が打たれた。

室町幕府の第三代将軍・足利義満は、一四〇一年、明に使節を派遣し、建文帝から日本国王の冊封を受けた。室町幕府の取締り強化によって前期倭寇は沈静化し、東アジアは百年以上に及ぶ平和な時代を迎える。

足利義満(1358～1408)







①九回

②十九回

遣明船は一四〇一年から一五四七年の約一五〇年の間に、計何回派遣されたか？



倭寇の地域別発生件数

■ 朝鮮半島 ■ 中国

田中健夫『倭寇 海の歴史』
(講談社学術文庫 2012年)をもとに作成

遣明船の派遣 1401-1547

1320 1325 1330 1335 1340 1345 1350 1355 1360 1365 1370 1375 1380 1385 1390 1395 1400 1405 1410 1415 1420 1425 1430 1435 1440 1445 1450 1455 1460 1465 1470 1475 1480 1485 1490 1495 1500 1505 1510 1515 1520 1525 1530 1535 1540 1545 1550 1555 1560 1565 1570 1575 1580 1585 1590 1595 1600 1605 1610 1615

室町時代

鎌倉時代

南北朝時代
1336-92年

戦国時代
1493-1573年

安土桃山時代

江戸時代



Q

この人物は一四六七年、遣明船に同乗して明に渡り、絵画を学んで帰国し、室町時代の水墨画を大成した画僧である。
この人物は誰か？

①雪舟

②一休





雪舟（一四二〇〜一五〇六年頃）

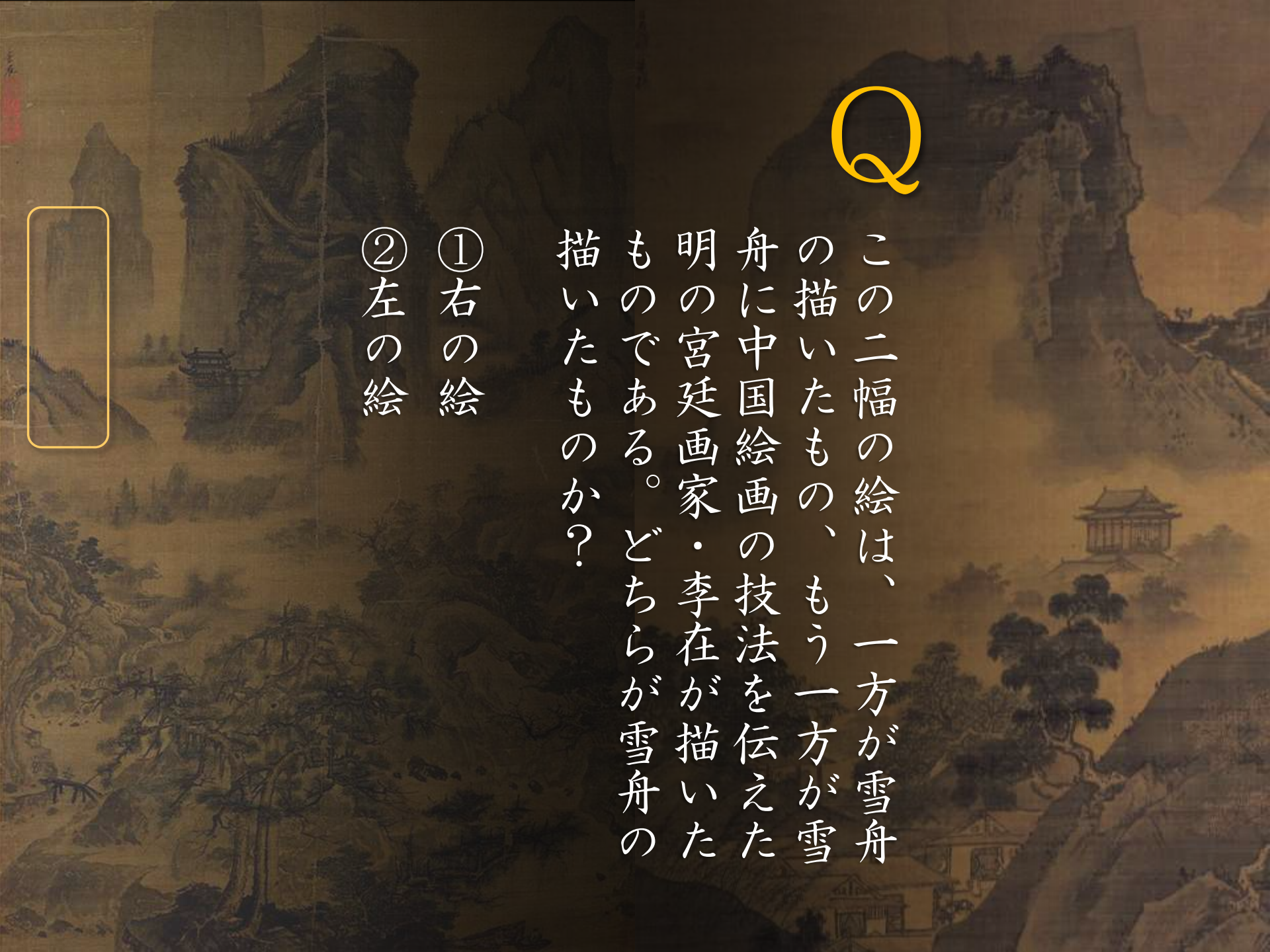
室町時代、日本の水墨画を大成した画僧。少年時代、京都の相国寺に入り、僧侶となる。

一四六七年（応仁元年）、四十七歳の時、遣明船に同乗して明に渡る。

天童山景德寺で禅班第一座に任ぜられた後、北京に上って歴代の名画を模写するとともに、宮廷画家の李在らに中国絵画の技法を学んだ。







Q

この二幅の絵は、一方が雪舟の描いたもの、もう一方が雪舟に中国絵画の技法を伝えた明の宮廷画家・李在が描いたものである。どちらが雪舟の描いたものか？

① 右の絵

② 左の絵



(明)李在「山水图」



(日本)雪舟「四季山水图」

Q

この絵は、雪舟がいつ、どこで描いたものか？

- ①留学中に中国で
- ②帰国後に日本で

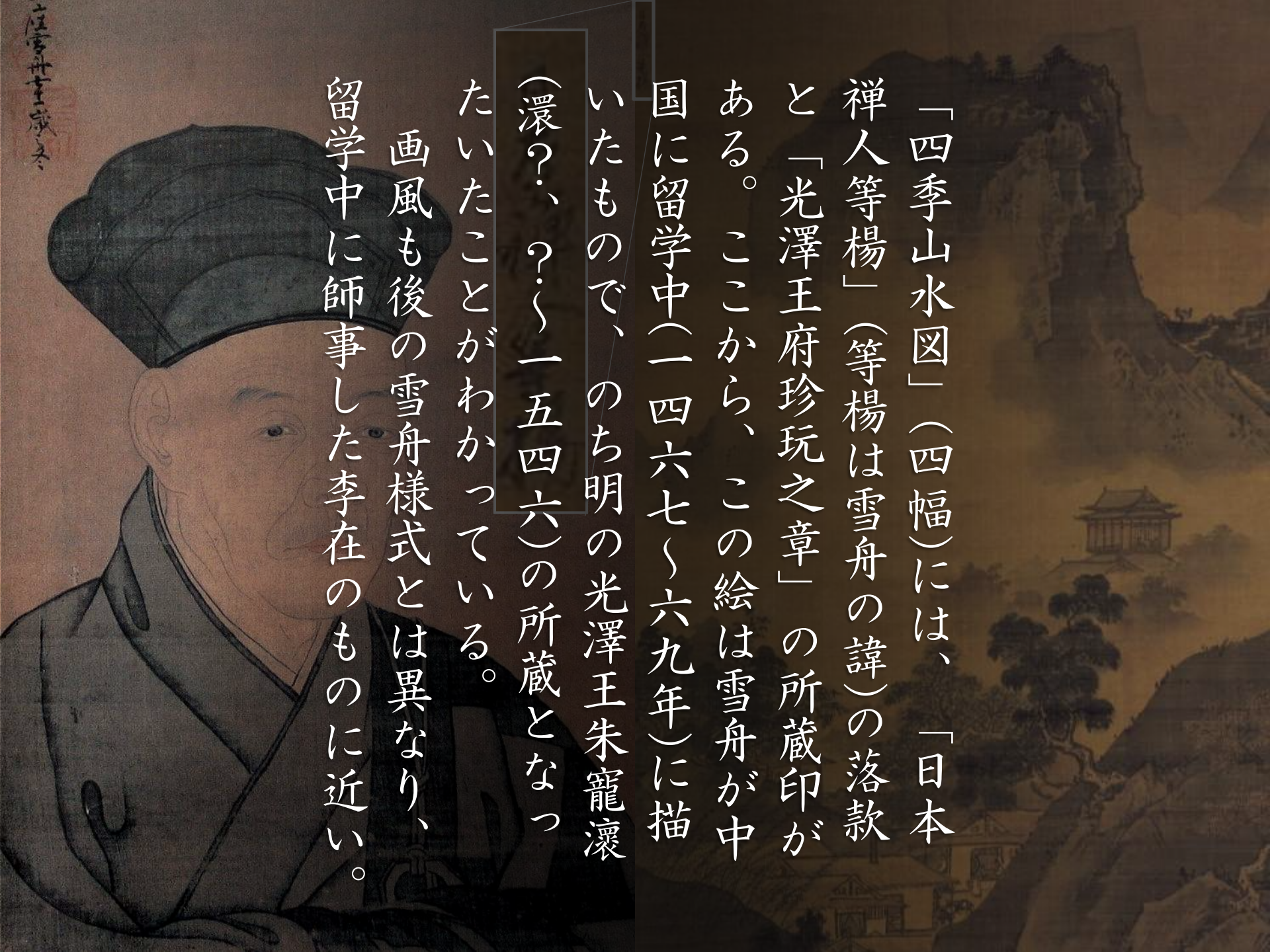




雪舟(1420~1506頃)



雪舟「四季山水図」



「四季山水図」（四幅）には、「日本
禅人等楊」（等楊は雪舟の諱）の落款
と「光澤王府珍玩之章」の所蔵印が
ある。ここから、この絵は雪舟が中
国に留学中（一四六七～六九年）に描
いたもので、のち明の光澤王朱寵灝
（濃？、？～一五四六）の所蔵となっ
ていたことがわかつている。

画風も後の雪舟様式とは異なり、
留学中に師事した李在のものに近い。

雪舟が明への留学中に描いた「四季山水図」



雪舟の師・明の宮廷画家李在が描いた「山水図」

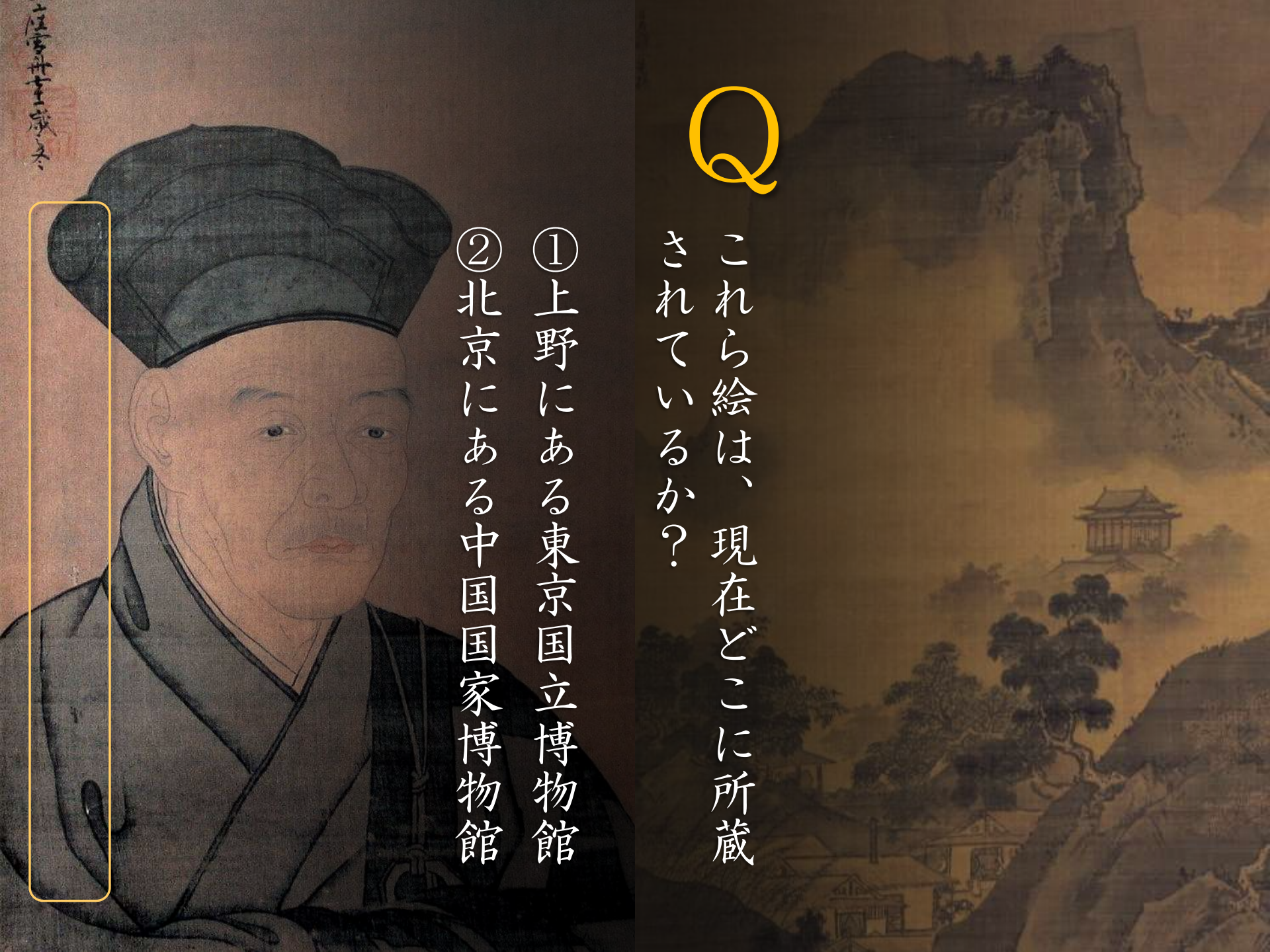
雪舟が明への留学中に描いた「四季山水図」



雪舟



雪舟が帰国後に描いた国宝「秋冬山水図」

A traditional Chinese landscape painting in ink and light color, showing misty mountains, a pavilion on a hill, and a small village at the base. The style is typical of the Yuan or Ming dynasties.

Q

これら絵は、現在どこに所蔵されているか？

- ① 上野にある東京国立博物館
- ② 北京にある中国国家博物館





東京国立博物館

第三節 戦国時代と後倭寇



後期倭寇

一四六七年の応仁の乱以降、室町幕府の権威は失墜し、日本はふたたび戦乱の時代を迎える。戦国時代である。

遣明船の派遣はその後も続いていったが、日明間の密貿易の拡大により、一五四七年の第十九回を最後に終焉を迎える。

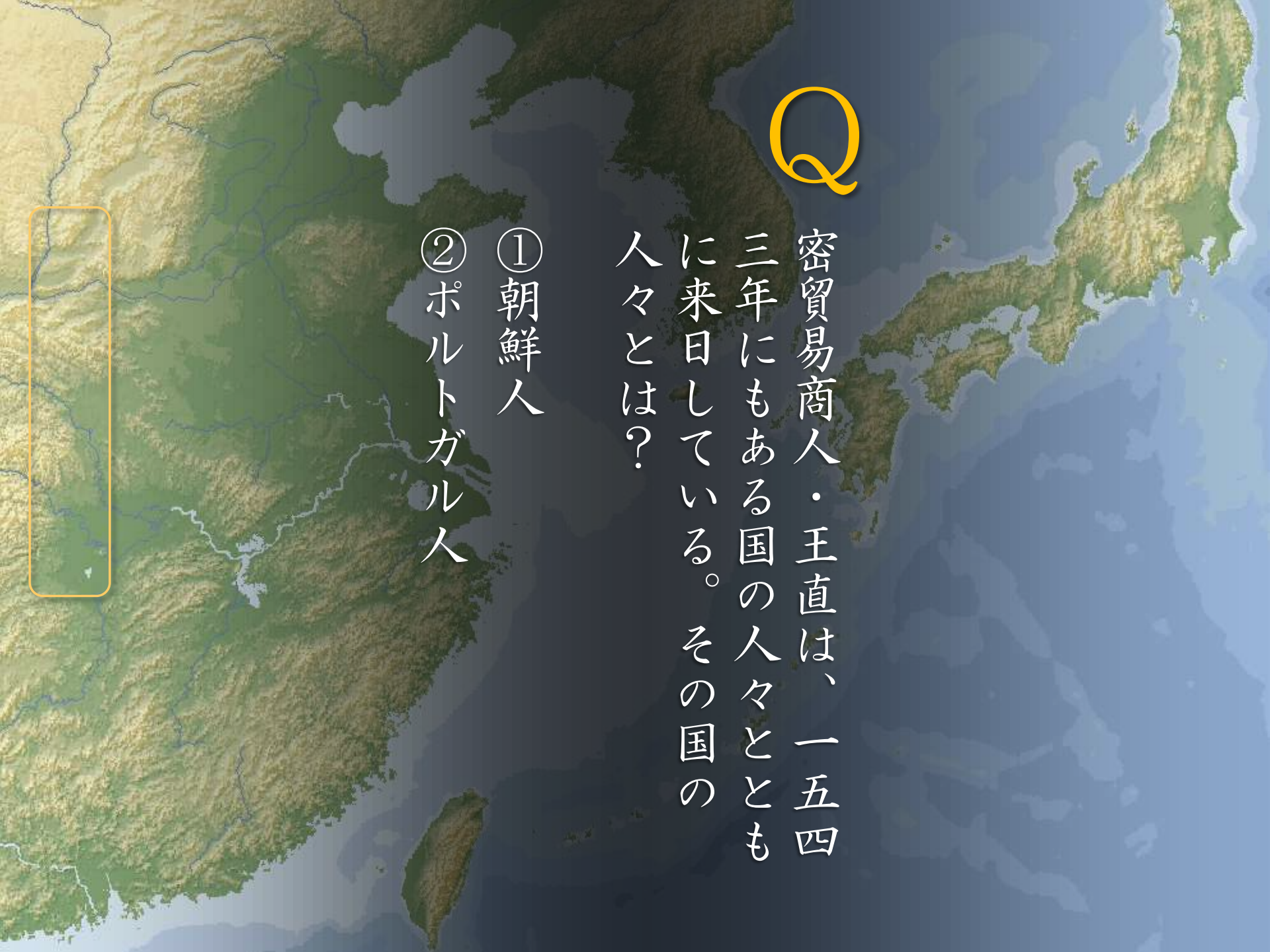
一五四八年、明は密貿易の拠点であった双嶼を討伐するが、日本に逃れた密貿易商人・王直らは、五島列島に本拠を移し、新たに日中合同の「倭寇」が猛威を振るようになる。



王直ら拠点を五島列島に移す

This map illustrates the relocation of a trade base. A red dashed arrow points from a location on the Chinese coast (Shuangyu) to the Five Islands (Goto Islands) in Japan. Two black lines connect the text boxes to their respective locations on the map.

朱紘が密貿易の拠点双嶼(六横島)を討伐(1548年)



Q

密貿易商人・王直は、一五四三年にもある国の人々とともに来日している。その国の人々とは？

① 朝鮮人

② ポルトガル人

鐵砲記

代種子嶋 久時公

隅州之南有一嶋去州一十八里名曰種子我祖世
世居焉古來相傳嶋名種子者此嶋雖小其居民庶
而且富譬如播種之下一種子而生々無窮是故名
焉先是天文癸卯秋八月二十五丁酉我西村小浦
有一大船不知自何國來船客百餘人其形不類其
語不通見者以爲奇怪矣其中有大明儒生一人名
五峯者今不詳其姓字時西村主宰有織部丞者頗
解文字偶遇五峯以杖書於沙上云船中之客不知
何國人也何其形之異哉五峯即書云此是西南蠻
種之賈胡也粗雖知君臣之義未知禮貌之在其中
是故其飲也抔飲而不杯其食也手食而不箸徒知
嗜欲之極其情不知文字之通其理也所謂賈胡到
一處輒止此其種也以其所有易其所無而已非可
怪一五四三年又ポルトガル船が種子
島に漂着し鉄砲を伝えた。このと津
き船の同乗し、通訳を務めたのが王
直(五峯)であつた。

文之玄昌「鉄砲記」(一六〇六年、

『南浦文集』上卷所収)

倭寇の地域別発生件数

■ 朝鮮半島 ■ 中国

田中健夫『倭寇 海の歴史』
(講談社学術文庫 2012年)をもとに作成

遣明船の派遣 1401-1547

1320 1325 1330 1335 1340 1345 1350 1355 1360 1365 1370 1375 1380 1385 1390 1395 1400 1405 1410 1415 1420 1425 1430 1435 1440 1445 1450 1455 1460 1465 1470 1475 1480 1485 1490 1495 1500 1505 1510 1515 1520 1525 1530 1535 1540 1545 1550 1555 1560 1565 1570 1575 1580 1585 1590 1595 1600 1605 1610 1615

室町時代

鎌倉時代

南北朝時代
1336-92年

戦国時代
1493-1573年

安土桃山時代

江戸時代

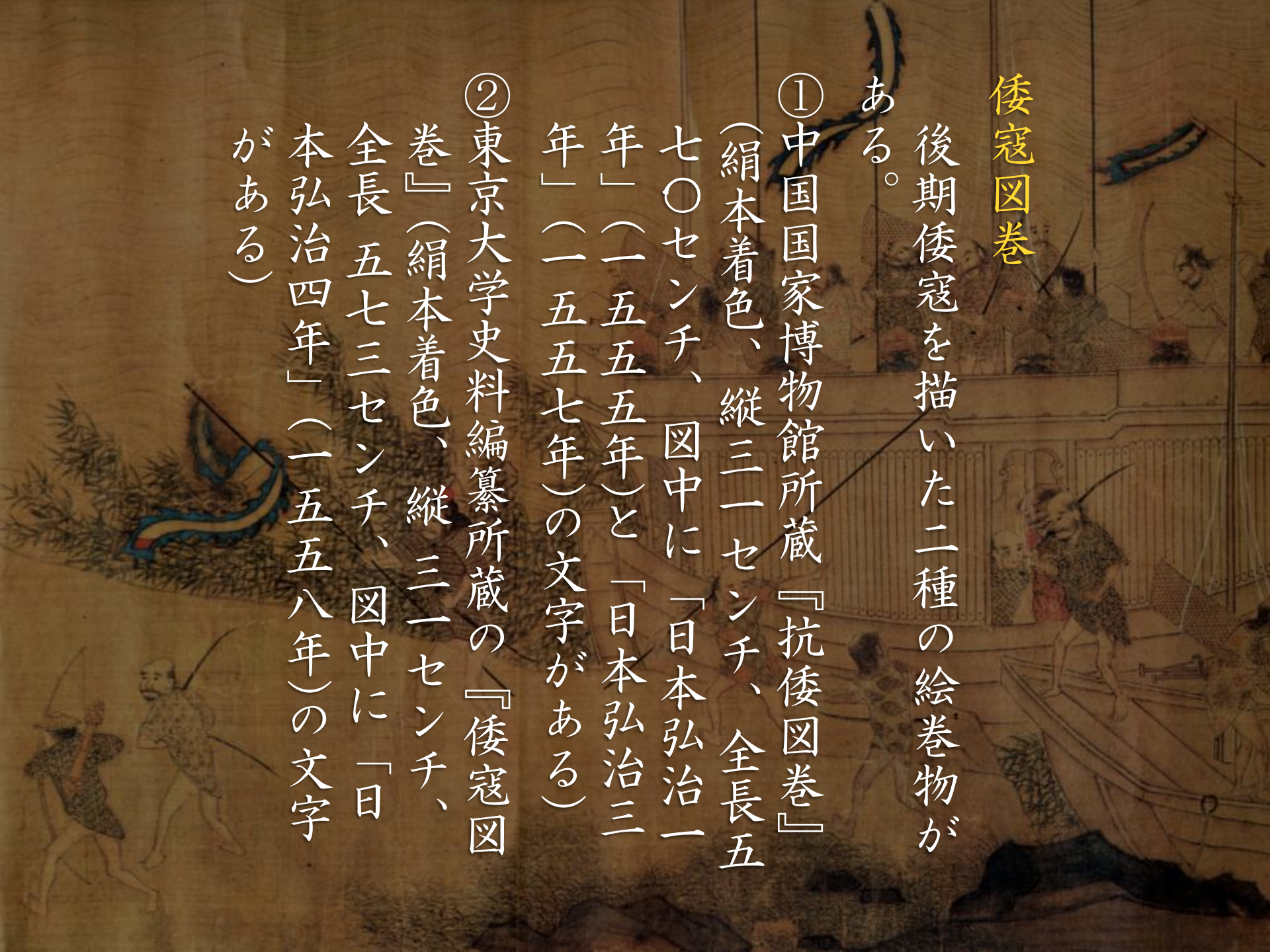


倭寇図巻

後期倭寇を描いた二種の絵巻物がある。

①中国国家博物館所蔵『抗倭図巻』
（絹本着色、縦三一センチ、全長五七〇センチ、図中に「日本弘治三年」（一五五五年）と「日本弘治三年」（一五五七年）の文字がある）

②東京大学史料編纂所蔵の『倭寇図巻』（絹本着色、縦三一センチ、全長五七三センチ、図中に「日本弘治四年」（一五五八年）の文字がある）





抗倭图卷(中国国家博物馆藏)



倭寇図卷(東京大学史料編纂所藏)



抗倭图卷(中国国家博物館藏)



倭寇图卷(東京大学史料編纂所藏)

倭寇の襲来



倭寇図卷(東京大学史料編纂所蔵)

倭寇船



倭寇図卷(東京大学史料編纂所藏)

月代(さかやき)と日本刀



倭寇図巻(東京大学史料編纂所蔵)

倭寇の上陸



倭寇図卷(東京大学史料編纂所藏)

放火と略奪



倭寇図卷(東京大学史料編纂所藏)

逃げ惑う民衆



倭寇図巻(東京大学史料編纂所蔵)

官軍が倭寇退治に出発



倭寇図巻(東京大学史料編纂所蔵)

倭寇を迎え撃つ官軍の軍船



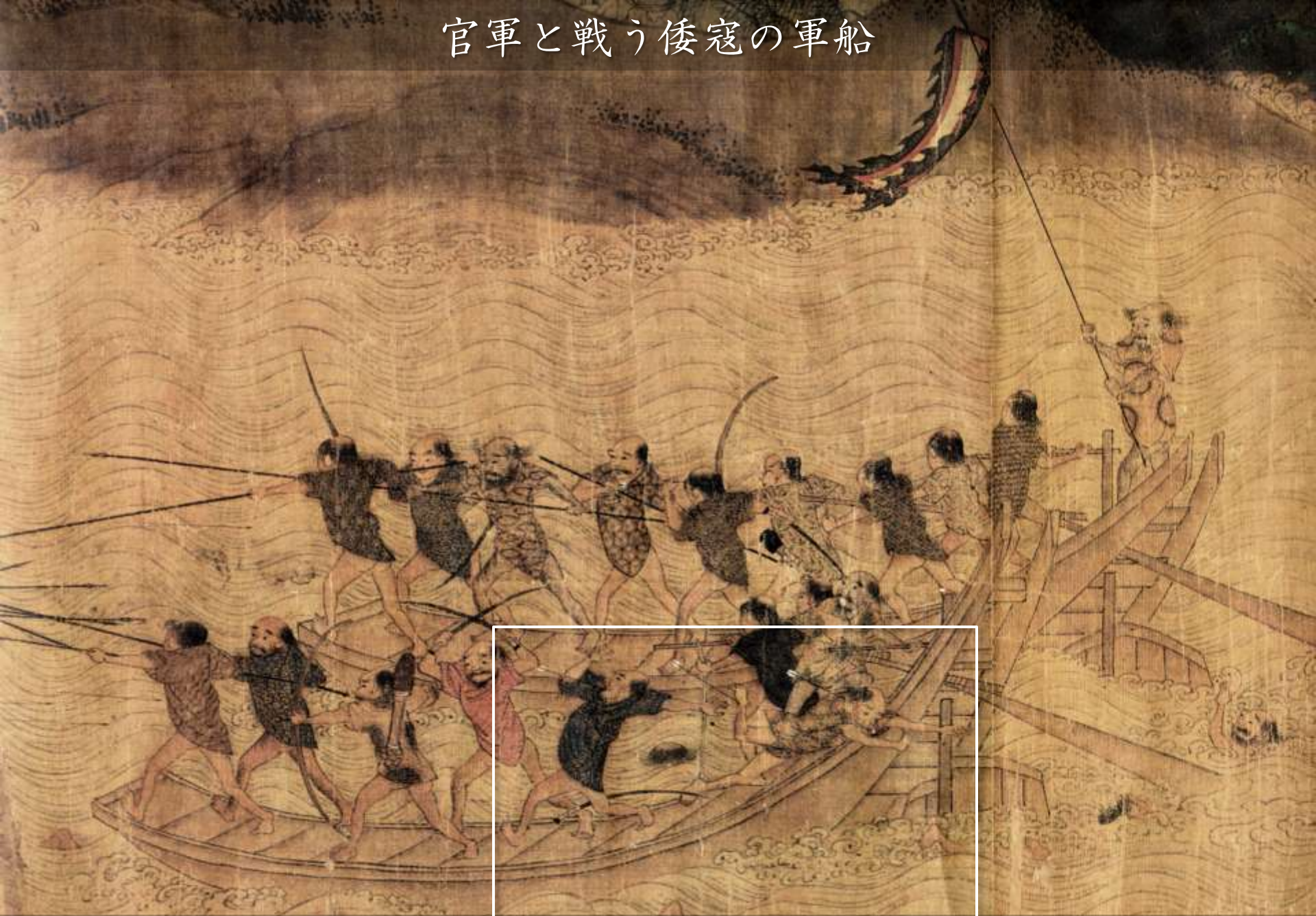
倭寇図巻(東京大学史料編纂所蔵)

倭寇と戦う官軍の軍船



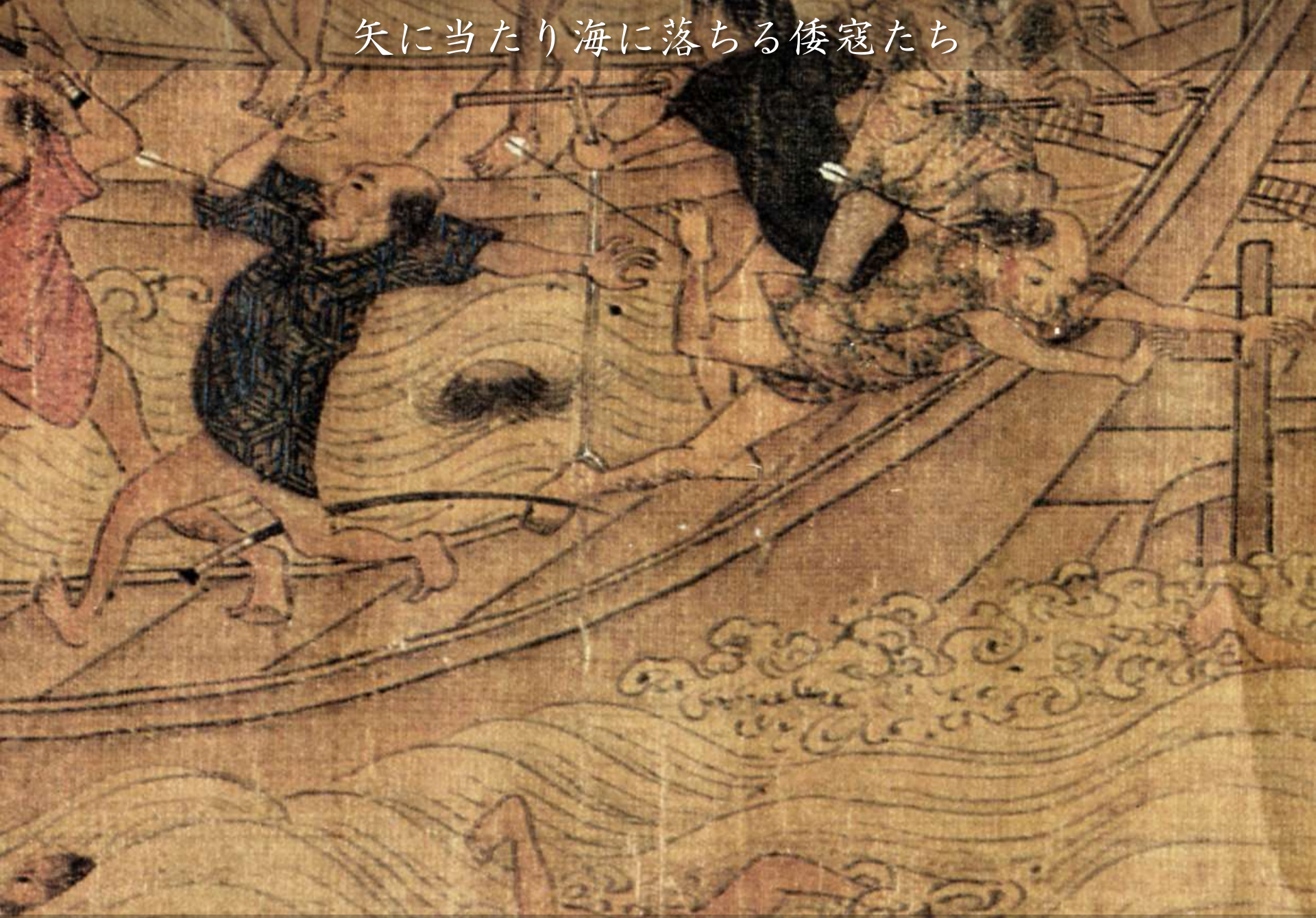
倭寇図卷(東京大学史料編纂所蔵)

官軍と戦う倭寇の軍船



倭寇図巻(東京大学史料編纂所蔵)

矢に当たり海に落ちる倭寇たち



倭寇図巻(東京大学史料編纂所蔵)

“報捷”（勝利の知らせ）を伝える伝令



倭寇図巻(東京大学史料編纂所蔵)

“報捷”（勝利の知らせ）を伝える伝令



倭寇図巻(東京大学史料編纂所蔵)

参考文献

- 田中健夫『倭寇海の歴史』（講談社学術文庫二〇一二年）
- 朱敏「『明人抗倭図巻』を解説する」『倭寇図巻』との関連をかねて」（東京大学史料編纂所研究紀要第二二号二〇一二年三月）
- 東京大学史料編纂所編『描かれた倭寇 「倭寇図巻」と「抗倭図巻」』（吉川弘文館二〇一四年）
- 蓮実重康『雪舟等揚論とその人間像と作品』（筑摩書房一九六一年）